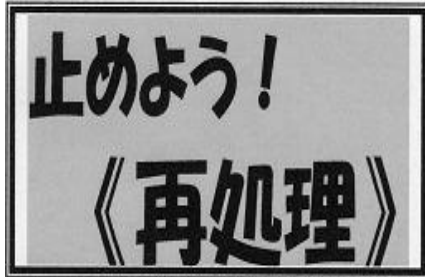


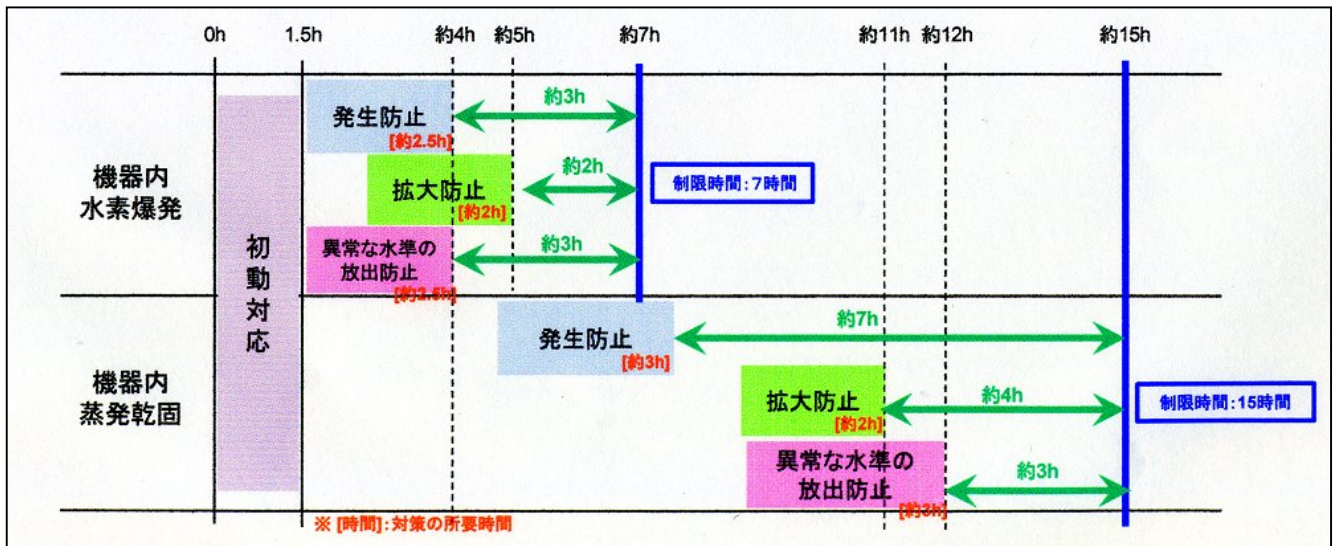
三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) **三陸の海・岩手の会**
 郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
 2016(平成28)年
 8月29日
 第169号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

六ヶ所再処理工場の放射性溶(廃)液貯槽等 機器内水素爆発濃度到達: 約7時間 機器内沸騰到達: 約15時間

日本原燃の 原子力規制委員会への報告資料(6月15日)



原子力規制委員会、第124回核燃料施設等の新規制基準適合性に係る審査会合配布資料5(1) 2頁 表 (分離建屋)

同資料 4頁 表 (分離建屋)
 「機器内水素爆発(水素濃度8%到達: 約7時間)」「機器内蒸発乾固(沸騰到達時間: 約15時間)」の記述。

【原子力規制委員会ホームページ】から
<https://www.nsr.go.jp/data/000153661.pdf>

六月一五日公表
 新規制基準審査会へ
 日本原燃報告書
 公開質問
 昨年の落雷事故では高レベル廃液を扱う分離建屋の液位計の異常は、復旧までに四九時間を要している。また高レベル廃液を貯蔵する塔槽でも五〇時間もかかった。これでは、高レベル廃液の沸騰開始までの二四時間、水素爆発濃度到達までの三五時間

七月二〇日行われた「六ヶ所再処理工場の落雷事故に関する質問書」のうち、高レベル放射性廃液の安全確保についてのやりとりを報告します。
 受け取った回答書には「高レベル廃液は電源喪失などで冷却や水素掃気が停止しても沸騰開始までは約二四時間、水素爆発濃度到達まで約三五時間」と書かれています。しかし、驚いたことには、六月一五日公表の原子力規制委員会再処理等新規制基準審査会合資料には、「沸騰到達時間約一五時間、水素濃度8%到達約七時間」と記されていました。
 この矛盾について私達は、同じ日本原燃資料なのにおかしい。どちらが本当なのか?と追及しました。

高レベル廃液以外の放射性溶液も
 水素爆発の危険!

には間に合わない。

安全冷却水系や安全

圧縮空気系により高レベル廃液の冷却と水素掃気は継続していた。

◇市民：六月一五日に

日本原燃から原子力規制委員会新規制基準審査会へ宛てた報告書資料がホームページに載った。高レベル放射性廃液の冷却や水素掃気機能を喪失した場合、「水素が8%濃度に達するの

は七時間、廃液の沸騰が始まるのが一五時間」と回答している。今日受領した回答文では「一六時間で対応が出来る」と書いているがそれ以前に危険に達する数字である。同じ原燃資料なのに異なっている。

◆原燃広報：その六月一五日公表資料は確認し再回答する。
◇市民側：公表の数値が同じ社内でも共有されていないのは驚きだ。重要情報を知らないでは済まされない。

せん断熔融使用済み核燃料四二五トから出来た高レベル廃液

公開質問

「アクティブ試験でせん断熔融した使用済み核燃

料から発生した高レベル放射能廃液の量は何立方ダツか？

回答文

平成二七年三月現在で高レベル廃液が約一二三立方ダツある。セシウム134と137はそれぞれ約二八〇〇兆ベクレルと約五二京ベクレルである。再処理施設を管理するためには、定時に水・硝酸を加え均質を保つ。従って四二五トから発生した量と同じではない。

市民：四二五トからどれだけの危険物が出来たかを知りたい。ストロンチウムについても回答してほしい。

原燃：ストロンチウムは計算値でしか表せない。
◇市民側：四二五トのうちガラス固化したのは何立方ダツか？

◆原燃：アクティブ試験で製造したガラス固化体は三四六本である。含まれている廃液量、放射能量は運転情報で答えられない。

アクティブ試験最終報告書

公開質問

「アクティブ試験最終報告書」にあるガラス溶解炉A系B系の合計五〇

本のガラス固化体に封じ込められたセシウム137とストロンチウム90の量が知りたい。

回答文

ガラス固化体に含まれている放射能量については「平均放射能量」として管理しているので回答出来ない。

市民：「危険な液体状態を管理するだけ封じ込めたので安全に近づいた」として情報公開するべきだ。英仏からの返還ガラス固化体には中の放射能量が記されている。それが記されていないと、作業労働者に無用な被ばくをもたらす。

固化進展と安全情報

公開質問

高レベル放射性廃液に脅威を感じている。東海工場は一月からガラス固化を開始した。六ヶ所工場も急ぐべきだ。

回答文

全交流電源供給機能が喪失した場合、機能を回復に要する時間は一六時間以内であり安全に対応出来る。

市民：六月一五日の提出資料と矛盾する。

高レベル廃液の貯蔵ゼロとする自主規制

公開質問

貴社は、人々の安全の

為に高レベル廃液貯蔵量をゼロとする自主規制を行う予定はないか？

回答文

新規規制基準では冷却機能喪失による蒸発・乾固に対処する要求はあるが、貯蔵量に関する要求はない。

◇市民：現場を知っている原燃こそ安全確保の意見を上げるべきだ。

使用済み核燃料プールの満杯の危険性

公開質問

使用済み核燃料プールの容量は三千トであるが、現在二九六八ト詰め込まれ(九八・九%)満杯である。補修や移送のための余裕がない。

回答文

ガラス固化体と直接関係ないので回答できない
◇市民：ガラス固化で事故が起これば、近接の使用済み核燃料プールも危険になる。プールには余裕が必要と思うがどうか？

◆原燃：作業工程のための「移送プール」などは別に確保されている。現在貯蔵の使用済み核燃料は長期の物では搬入以来一六、一七年である。

事故評価シミュレーションはなぜ必要か？

公開質問

貴社は、実施した再処理工場重大事故シミュレーションを示されたい。

公開質問

原子力規制庁内検討チームでやっている。

回答文

◇市民：五ヶ所圏内のみでよいのか？福島原発事故後、日本原燃として当然行っているべきだ。

◆原燃：事業申請書に書かれている。

◇市民：福島事故以降三〇ヶ所圏内の避難計画が義務。再処理工場については福島事故以前の発想レベルだ。

トリウムやクリプトン89を全量環境放出

公開質問

六ヶ所再処理工場はトリウムやクリプトン、炭素14を全量放出する設計である。これは見直すべきである。

回答文 再処理工場から放出される一般公衆の受ける放射線量当量は年間0・022ミリシーベルトである。

◇市民：一京八千兆ベクレルも海に流して陸上の住民が受ける放射線被害がそのように小さいはずがない。どのような数字を用いて計算したのか不明である。体内に入った

「有機トリウム」が染色体に与える害は深刻である。

高レベル廃液ばかりではなかった！多くの水素爆発の危険ある貯蔵

私たちは今まで高レベル廃液貯蔵が破壊される危険を重視し働きかけてきました。しかし、高レベル以外の放射性溶(廢)液を保有する多数の貯蔵においても放射線分解水素が発生し、極めて短時間に爆発濃度下限値に到達するものがあることがわかりました。このことから、小規模の水素爆発をきっかけに、水素爆発や溶剤火災の連鎖が起り、遂には高レベル廃液の水素爆発や蒸発乾固した硝酸塩の大爆発により環境へ大量の放射能放出となる重大事故へと進展することが想定されます。工場の主要工程の殆どで水素爆発の危険があることが今回の回答や原燃の新規制基準審査資料からわかりました。恐ろしい工場です。(永)